俳人、稲畑汀子さん逝去

中山正光（俳号：前歩、11 組）

俳句結社『ホトトギス』の名誉主宰の稲畑汀子さんが２月２７日、心不全のため９１歳で亡くなりました。ご存知のように、彼女の祖父は俳人の高浜虚子翁（1874-1959）、父も俳人の高浜年尾翁（1900-1979）です。

虚子家族は、太平洋戦争の戦火を避けて 1944 年 9 月から 1947 年 10 月までの足掛け４年間を小諸市で暮らしました。疎開先は、私が所属している上田高校関東同窓会の「やまびこ句会」のメンバーである小山平六さん（６２期）の生家で、ここに記念館と虚子家族が過ごしていた家が現存しています。小山さんの名前（平六）は虚子が命名者とのことです。

汀子さんの父、年尾は小樽高商（現・小樽商科大学）卒業の私の先輩で、小林多喜二と同期、グリークラブを創部したと耳にしています。虚子がその縁もあり、同校を訪れて講演をしたという話を私が在校時代によく聞きました。在りし日の稲畑汀子さん

『ホトトギス』は日本で一番大きな俳句結社です。汀子さんは１９７９年から２０１３年にご子息の稲畑廣太郎さんに引き継ぐまで長年主宰を務められました。

１９８７年には日本伝統俳句協会を設立して、ずっと会長を務めておられました。汀子さんの句風は風雅でしなやかさと気品がありました。阪神・淡路大震災の時「寒月の照らすは地震に崩る街」など被災地からの写生句が特に印象に残っています。

但し、この歴史ある『ホトトギス』も会員の老齢化が進み、汀子さんのご逝去で今後どういう展開になるのか不透明だとの噂もあり、寂しい限りです。

因みに、現在私が入会している俳句結社『航』でも、主宰の榎本好宏氏が今年の２月２日に８４歳で亡くなりました。副主宰の人も継ぐつもりは無く、外部から然るべき選者を招聘するそうです。

ここだけでなく、いろんな俳句結社は会員の老齢化が進んでおり、自然退会が増えていて、運営が難しく、会費値上げで忍んでいる状況のようです。

こうした組織はどこの世界も同じですね。　　以上

（２０２２年3月３日記）